

ディスコン



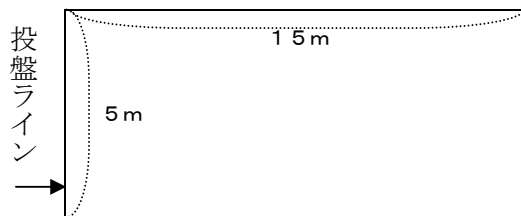
岡山県立少年自然の家でクラフト活動に使用するコースター（木を輪切りにしたもの）から発想し、1997年（平成9年）に完成したスポーツです。ルールはペタンクとよく似ていて、赤と青の2チームに分かれて、1チーム6枚の円盤を投げ、どちらがポイントに近づいているかを競う簡単なスポーツなので年齢・性別を問わず誰にでも楽しむことができます。

◎用具

- ・ディスコン 12枚（赤と青の表裏異色の円盤）
- ・ポイント 1枚（黄色の円盤）

◎コート

・右のようなコートを理想とするが競技者（年齢・体力）や会場の広さ等により、コートや投盤距離を設定することができる。



◎競技人数と投げる盤の数

- ・個人戦・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人6枚
- ・団体戦 チーム2人の場合・・・・・・ 1人3枚
- 3人の場合・・・・・・ 1人2枚
- 6人の場合・・・・・・ 1人1枚

◎ゲーム

- ①じゃんけんをしてチームの色を決めます。勝ったチームが赤です。
- ②赤チームの1人がポイント（黄）を3～15mの範囲内に投げ、続けてディスコン1枚を赤面を上にして投げます。
※このとき、ディスコンがひっくり返って青になった場合、続けて赤チームがポイントに青ディスコンより近づくまで投げます。

③次に青チームが投げます。

④以後、ポイントに遠い方のチームが相手よりも近づくまで投げます。どちらかのチームがディスクを全部（6枚）投げ終わったら、もう一方のチームは、残りのディスクを投げて、投げなくても構いません。

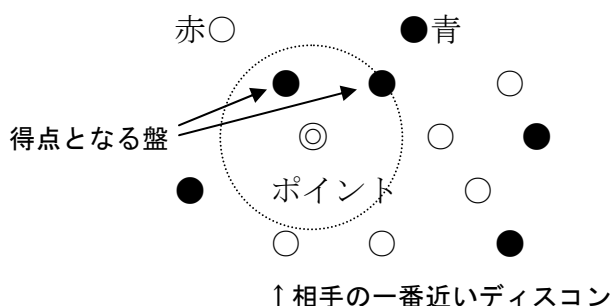
※残りのディスクを投げて、得点を追加できる場合もありますが、逆に自滅して相手の勝ちになる場合もあります。

◎得点

①黄色のポイントにより近いチームの得点です。

②得点は、ポイントに一番近い相手のディスクよりも何枚近づいているかを数えます。

得点の数え方の例



左の場合、ポイントに近いのは青なので、青チームが勝ち。得点は、相手（赤）の一番近い盤より内側に2枚あるので、2点となる。

得点を確認したら次のイニングに入ります。負けたチームからポイントを投げて始めます。早く11点獲得したチームの勝ちです。

その他

- ・ポイントがディスクに当てられたり、自然の作用（風等）で移動した場合は、そのまま移動先の位置から測定する。
- ・等距離や測定困難な場合は、その次に接近しているディスクで競う。
- ・ディスクが立ってしまった場合は、中立・ノーカウントとする。
- ・投げるときに投盤ラインを踏んだり、踏み越したりした場合は相手チームに1点を加える。
- ・ゲーム中コートの外に出てしまったディスクは無効とし、すぐに拾います。
- ・ゲーム中ポイントがコートの外に出てしまった場合は、この時点でイニングを終了し、残り枚数の差で得点をつけます。同数の場合はノーゲームとなり、そのイニングを最初からやり直します。

問い合わせ先

日本ディスクン協会 TEL 086-277-0805 桧山武雄 方